

空を見あげて

新しい春、令和3年はどんな年になるのでしょうか。期待と不安に満ちた新年、皆様明けましておめでとうございます。

永い冬に耐えたものだけが力強く芽吹く季節がやってきます。今回は、ことわざを見てみます。「時と潮時 人を待たず」「蔭くに時あり 刈るに時あり」どちらも自然界をよく観察し、その法則を学ぶ必要性を感じさせます。

次に、大病や死が近づいてきたときにしか考えないことを見てみましょう。自分は、「何のために生きているのか」という問いです。思春期に目覚める問いとも言われます。また健康な大人は生きるために忙しく考える暇がありません。大病をした時、大切な人を喪ったり、死の予感に襲われて、絶望感を味わうときに訪れる問いとも言えるでしょう。内面に深く問いかける季節の始まりを私は還暦と呼びたいと思います。

町長 田中一典

モー突進レポート

SHOW TIME 翔たいむ vol.19



田村翔惟です。今回の翔たいむはバスケットボール連盟の練習に参加させていただきました。



「妹背牛バスケットボール連盟」は、先輩方から引き継がれてきて40年以上も続く連盟です。現在は総勢22名、毎週金

曜日の午後7時から総合体育館で活動しており、2か月に1回のペースで大会や試合などを行っています。実際に練習を開始するのは午後7時半頃なので練習前に各々で体を温めます。

まず、最初に行うのがランニングシュートの練習。2人1組でシューターとパスを出す人を交互に入れ替えて行います。この練習では、シュートを放つ方向を変えるなどいくつかのパターンを繰り返します。パスする側も走りこんできたシューターにシュートを打ちやすいタイミングでパスしなければならぬので気を遣わなければなりません。次に行ったのがスリーオンスリー。この練習は、オフエンスとディフェンスに3対3でわかれて、オフエンスの時は点を取ると勝ちです。どちらかが勝つとディフェンス側の組が次のオフエンスに



妹背牛バスケットボール連盟

変わります。このローテーションをおよそ10分間で繰り返していくのでなかなかハードな練習でした。

休憩をはさんだ後は、いよいよゲームです。バスケットボールは基本5対5で行うので、20人近くいる人数を1クォーターごとにそれぞれ交代しながら行きます。僕は今回早く取材を受けていただいた熊谷さんのチームに入らせていただきました。役割は、ディフェンスの際は相手チームの清水さんに付き、オフエンスの際はシュートを打てる場面でどんな打ちにいきたいと思います。しかし、ここまでの練習の疲れもあってなかなかシュートが決まらず、1クォーターでバテてしまいました。

休憩中にみなさんに話を伺うと練習に参加している人の中には中学生など連盟以外の人もいて、幅広い年代のバスケット好きが集まっているそうです。また、バスケットボール連盟は練習や試合以外に毎年町民まつりのスリーオン大会に参加して地域を盛り上げながら活動を続けています。



試合後にはハトハトでした